

船井情報科学振興財団 第 4 回留学報告書

イエール大学化学&環境工学博士課程 2 年生になりました兼田真周です。この秋学期から大学は全て対面になり、留学生生活は去年に比べて劇的に向上しました。この度オミクロン株の急拡大が甚大な被害に繋がらないことを祈るばかりです。第 4 回目の留学報告書では、2021 年 8 月から 12 月までの出来事をご紹介します。

授業と研究

今学期は専門授業は取っておらず、留学生向けに開講されている英語の授業のみ履修しています。大学では TA を行うために独自の英語試験が課されており、その準備として留学生は大抵 1、2 年生のときに専門科目とは別に英語の授業を受けます。実際に授業で紹介されたのですが、特に学部生のクラスを担当する際に TA の英語力ひとつで生徒の重要な成績が左右されることが無いように、大学として留学生の英語力改善に力を入れているようです。英語の試験は割と本格的で、口頭で行われます。学生は発表するトピックを試験の 2 日前まで知らされず、ちょっとした即興力も試されます。試験はオンラインで録画され、実際のオフィスアワーを想定した受け応えを 3 人の講師に評価されます。先週この試験を受けたので、もし無事に通ることができれば来年の春学期に卒業要件である TA に晴れて就くことができます。

8 月にアメリカ化学学会が主催する学会へ参加するため、ジョージア州はアトランタへ行ってきました。要旨の提出の締め切りが 4 月頃にあり、当時は実験結果もストーリーも全く出来上がっていなかったのですが、留学が始まって以来続くオンラインの生活に飽きあきしていたため、対面の開催と知って見切り発車で申し込みました。データ集めの焦りから多少ストレスは

あったものの、発表準備を通して教授や研究室のみんなからフィードバックを受けたり気軽に議論したりできる機会を増やすことができました。アトランタは都会ですが東海岸の都市とは違った雰囲気を何処となく感じました。学会中に知り合った学生に連れられジョージアテックを見学しました。学内のカレッジには Fraternity を示す横断幕があちこち貼られ、これも新鮮な光景でした。そもそも Fraternity のこと自体知らず、アメリカ人の友達に教えてもらいました。学会はオンラインと対面のハイブリット形式で行われたため現地の参加人数は従来の規模には到底及びませんでしたが、ある程度のネットワーキングや議論を楽しむことができました。来年も学会に参加できるよう研究を進めて行きたいと思いました。

この学会が終わると今学期は単位の掛かった発表会等が予定されていないため、研究では締め切りに追われることなく毎日自分のペースで進めています。変わったことと言えば、自分のオフィスを4階の中国人グループから5階のアメリカ人が多く居るスペースへ移動したことです。どちらの研究グループにも正式に所属しており、昨年の1年間は席が空いていたため4階のオフィスで過ごしました。しかし中国人と韓国人がフロアの過半数を占めていてどうしても英語が物足りなくなる時がしばしばあったため、今秋から5階へ引っ越しました。5階は前回の留学で滞在した研究グループが主に使っているため、懐かしい顔ぶれもあってより居心地が良いです。

昨年から主導している研究プロジェクトの米政府研究センター（NAWI: National Alliance for Water Innovation）がようやく動き始めました。大学から2人の指導教授とオークリッジ国立研究所から成る3つのチームで協働しています。このために個別ミーティングの頻度も増え、いよいよ本格的な研究生活が始まったことを実感しています。来年の夏頃には Candidate の試験を受けるよう促されているため、それを目標に励んで行こうと思います。

余暇と普段の生活

今学期から学科による学生同士の交流イベントも多く開催され、時には毎週のように参加しています。学科の学生と知り合える場を多く用意してもらえるのは嬉しい限りなのですが、新し

い人と自己紹介から始めて交流するには予想以上に体力を使うことに気が付きました。去年はそういった筋肉をほとんど一切使っていなかったもので、慣れるまで少し時間が掛かりそうです。特に10月は最終週にかけてハロウィン関連のイベントが多くありました。交流会に日本人として単独で乗り込む時は未だ抵抗感がありますが、会が終わる頃には大抵新しい友達が見つかり、参加して良かったなと思います。このような研究室外のイベントに何回か参加していると、とりわけ白人のアメリカ人と仲良くなる難しさを感じるようになりました。気軽に様々な話をしますが、内容はいつも軽くどこか興味を持たれていないような印象を受けます。11月初めには大学の日本人会を開催することができました。今回は9月に新しく来られた学部生と大学院生の新入生歓迎会という名目で中華料理店にて行いました。去年の反省を生かし、学生がマイノリティにならないよう広報に配慮したところ、合計30人弱が集まり大盛況となりました。その多数を占める経済学やMBAの学生に加え、ドラマや映画歴史といった様々な専攻の人たちとも交流することができとても楽しかったです。学部生の新入生たちは未成年でお酒が飲めず、そのあまりの若さにショックを受けてしまいました…。

その他、昨年にも行った日本語のチューターを再開し、映画歴史を専攻している韓国人の博士課程学生を担当しています。週に2回は研究室の後に友達と大学のジムへ行き定期的に運動をしています。今学期から音楽院のプログラムを活用し、ピアノの個人指導を修士課程の学生から受けています。週末は大学内のサッカー大会へ工学院チームとして参加しています。今年のサンクスギビングも大量にターキーを食べました。

おわりに

ワクチンのお陰で今学期から対面の生活様式にほとんど戻ることができ、さまざまな交流を通してようやく留学している意義を見出し始めました。同時に2年目に入り自然と友達も増え、環境に馴染んできたように思います。来年もCandidateの試験をはじめとした困難に多々見舞われそうですが、初心忘れず一つひとつ糧にして行けたらなと思います。いつも船井情報科学振興財団の皆さまの温かいご支援を有難うございます。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。



左上：ピアノ練習ホール

右上：工学部サッカーチーム

左下：Yale-Harvard game アメリカンフット
ボール